

腫瘍内科

診療科のご紹介

腫瘍内科は週 2 回、完全予約制で外来診療を行っています。

腫瘍内科はおそらく聞き慣れない方が多いかと思いますが、胃がんや肺がんなどのがんや肉腫と呼ばれる腫瘍、血液腫瘍などの「悪性」と診断されるすべての病気を対象にしています。平均寿命の延長と共に 2 に 1 人はがんになり、3 人に 1 人はがんで亡くなる時代と言われています。そうした中で 1 人の人が 2 つ、3 つのがんになることも珍しくなく、また高齢化に伴い合併症の多い方も増えています。がんの治療も進歩し続けるとともに複雑化しています。

日本では長年、肺がんは呼吸器内科、消化器がんは消化器内科医や消化器外科と臓器別に各診療科で治療されるケースがほとんどでした。しかし、従来の方式では多重がんや希少腫瘍など対応困難なケースが増えてきています。そうした患者さんにがんの専門家として、よりよい治療を提供するとともに、がんの治療中や治療後の生活について患者さんと相談しながら進めていくことを目標としています。

対象とする疾患

全ての悪性腫瘍（がんと名前がついている方でしたら、治療中・治療後などは問いません。）

治療方針について

がんの治療においては「本人の意向を十分に尊重したがん治療方法などの選択がなされる医療体制」が重要です。そのために当科では以下のことに心がけております。

① 診断

がんの診断は治療を決める上で非常に重要です。またがんが疑われてから診断がつくまでというのは同時に患者さんにとって最も不安な時間です。当科では全身的にあらゆる可能性を考えてアプローチすることで、早期診断・早期治療の導入を心がけております。ただし、検査結果はすぐにでるものばかりではありません。初診から 1 ヶ月を目標に診断をつける努力をいたします。なお、診断においては「病理検査」と「ステージング（進行度）」が重要です。

【病理検査】がんの診断は、ほとんどが顕微鏡でがん細胞を見ることで確定します。そのため組織検査と言って、がんの一部を取る必要があります。皮膚腫瘍のように表面にでてすぐにとれるものから、手術生検などの大がかりな検査がひつようなものまで様々ですが、がんの一部を取る必要があることをご理解頂けたら幸いです。また、この病理診断に一般的に腫瘍をとってから診断がつくまでに 1～2 週間がかかります。

【ステージング（進行度）】がんの種類が診断できたとしても、そのがんがどれくらい進行しているかで治療目的と方法が変わります。ステージングには、CT や MRI、PET-CT などの検査を行います

が、PET-CT に関しましては当院で行えないため、近隣の医療機関にお願いする形になります。また、CT や MRI の検査は基本的には予約制です。

② 治療

治療方針の決定は、緊急の場合を除き、十分な時間とプライバシーの守られた環境、文書を用いた説明、質問しやすい雰囲気、がん看護専門看護師の同席と補足説明を取り入れることで、なるべく患者さんご家族にご理解頂けるような病状説明を心がけています。診断が決まれば、多くの場合は「標準治療」と呼ばれるガイドラインで推奨される治療法がありますので、診断結果に基づいて推奨される標準治療、またはその他の治療選択についてご説明いたします。なお、治療方針については、各科の専門家にご紹介する場合があります。がんの治療は、「手術」「放射線」「化学療法（抗がん剤）」に「緩和治療」を加えた 4 本柱が重要です。当科治療の場合、その中心は「化学療法」になりますが、場合によっては 2 つ以上の治療を組み合わせた集学的治療を行う場合もあります。治療には必ずリスクが伴いますので、患者さんの全身状態や生活状況なども含めて、一緒の治療方針についてご相談します。

【化学療法】何を目標に化学療法を行うのかを明確にすることが重要です。治療の目標には、がんを完全にやっつけることを目指す「根治」と、がんとうまくつきあいながら元気で長生きすることを目指す「延命（共存）」があります。根治を目指す場合には「頑張る治療」です。決められた用量を決められたスケジュール通りに行っていくことが非常に重要ですが、効果や副作用は非常に個人差が大きく、副作用のコントロールがうまくいかずに治療が長いこと中断してしまう場合もあります。そのため、なるべく治療の中断・延期がないように多職種と連携しながら副作用を最小限に抑えていきます。

延命（共存）を目指す場合には「うまく共存する治療」です。目指すところは治療をやり遂げることでなく、今の状態を少しでも長いこと維持することにあります。一方で治療は根治治療に比べて長期化することが多いため、よりよい生活を送りながら治療できるように支援させていただきます。

いずれの場合も、当科としては、事前に副作用のリスクを考慮して対策を組み、安全かつ有効な治療を行うことを目指します。頭の方から足の先まで全ての腫瘍に対応いたします。抗がん剤治療は日進月歩で、新薬の登場など治療方法はどんどん変わっていきます。最新の情報を提供しながら、その人に最適な治療を提供します。

③ 緩和ケア

緩和ケア（＝症状緩和）はがん治療において非常に重要な治療の 1 つです。特に近年、緩和ケアをしっかりと行うことで生活の質（Quality of Life: QoL）の医事・向上のみならず、全生存期間の延長を認めたことが報告されていることから、早期（診断時・治療時）からの緩和ケアが重要とされています。「痛い」「苦しい」「気持ちがつらい」などの身体症状や精神症状だけでなく、治療中の生活の悩み、仕事の問題、家族のサポートなど、治療以外の部分でも患者さんと共に悩み、共に向き合い、よりよい療養生活を送れるよう努力したいと考えております。「我慢する」のではなく、「分かり合える」関係を目指して、患者さん・ご家族からも積極的なご意見など 頂けましたら幸いです。